

観光振興・地域づくりのランドマークとしての リニア岐阜県駅前広場の設計

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻
1210044 小野 遥平
指導教員 重山 陽一郎

1. 背景と目的

2027年の東京―名古屋間の開業を目指し、リニア中央新幹線計画が進められている。開業時には、停車駅に加え車両基地が設置される。

リニア中央新幹線の開業は、新しい地域づくりの展開を可能にするチャンスといえる。

本設計では、リニア岐阜県駅が新たな交通の拠点として観光振興・地域づくりのランドマークとなるような周辺環境の整備を目的とする。

2. 対象敷地

対象となるリニア岐阜県駅の建設予定地は岐阜県中津川市千旦林である。在来線美乃坂本駅に近接して建設予定である。

下の図1のように、敷地内を千旦林川も流れ、豊かな自然に囲まれている。

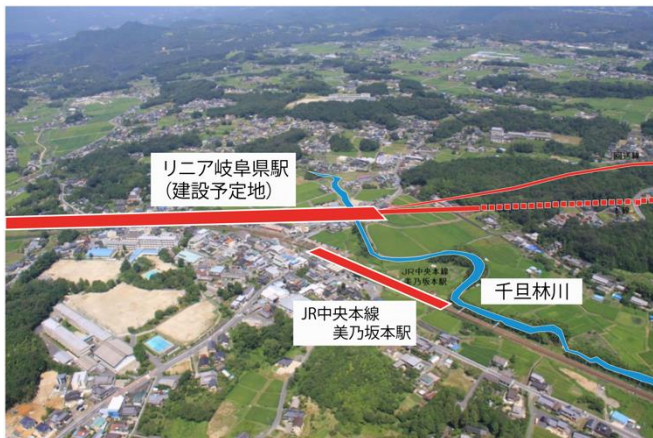


図1. リニア岐阜駅建設予定地
『リニア岐阜駅周辺整備概略設計』より筆者加筆

3. 現計画と課題

現在、岐阜県が発表している概略設計図が図2である。

1) 賑わいの創出が困難

リニア岐阜県駅・美乃坂本駅間の広場が交通広場と

して設計されており、歩行者のための空間が少なく賑わいの創出が難しい。

2) 高架下の活用の不足

駅前広場を賑わいをもたらす空間として利用するために、リニア中央新幹線の線路の高架下をより活用することが必要である。



図2. リニア岐阜県駅周辺概略設計図
『リニア岐阜県駅周辺整備概略設計』より引用

4. 設計方針

- 1) 新たな交通拠点として岐阜県の魅力を発信
 - ・ 広場からの眺望を考慮し自然景観と融合した親水性のある空間の創出
 - ・ 来訪者に「清流の国ぎふ」のイメージをアピール
- 2) コンパクトで利便性に優れた交通機能
 - ・ コンパクトな空間に必要な交通機能を備えた駅周辺の整備
 - ・ 公共交通と一般交通の交錯回避
- 3) 賑わいの空間を創出
 - ・ 広々とした歩行者空間の確保
 - ・ 駅利用者のみならず、地域住民も集う拠点としての整備

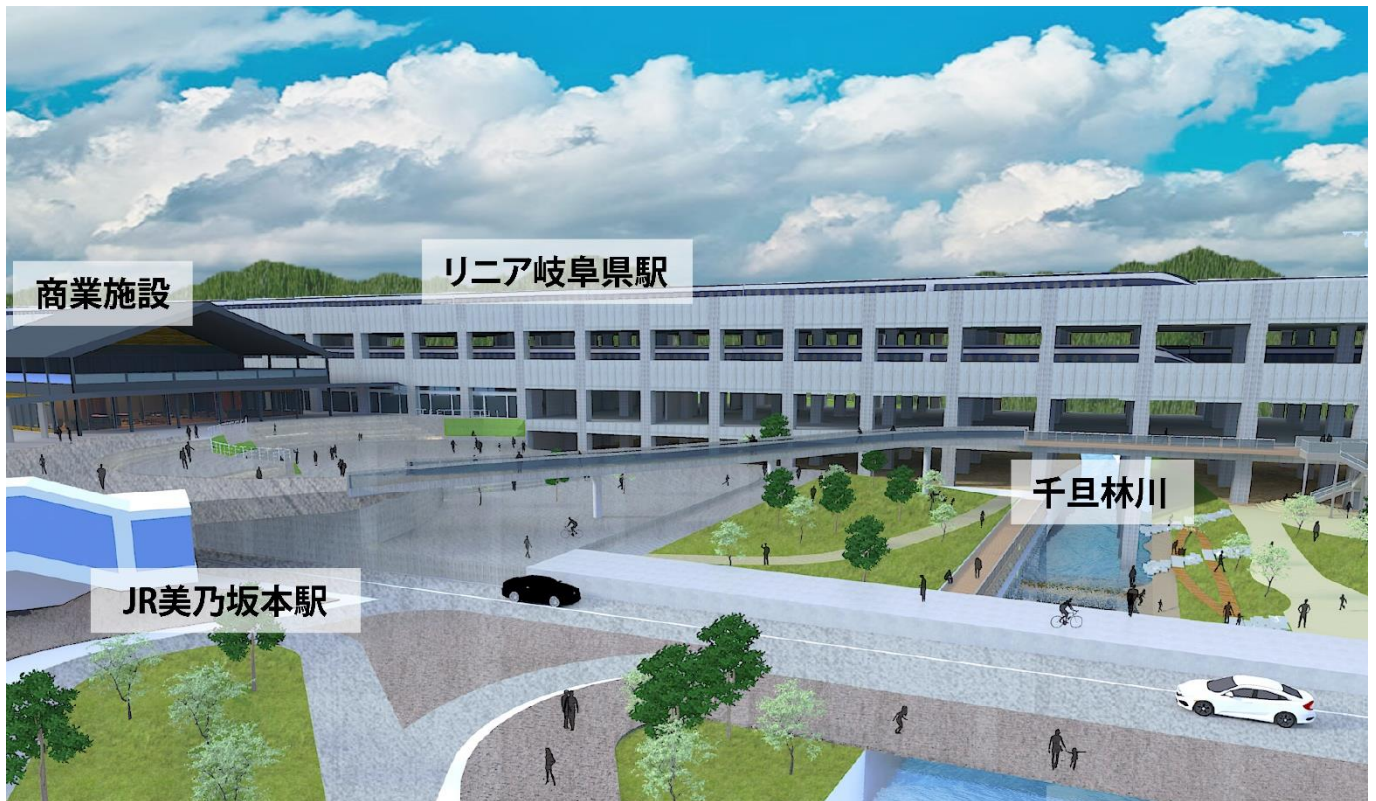


図3. 全体パース

5. 設計

現状の計画での課題に対して、景観・環境的な側面からリニア駅利用者と地域住民が集う賑わい空間を設計する。

1) 交通整備

- ・ 公共と一般交通分離

交通整備として公共交通と一般交通の分離を行う。

レンタカー駐車場、短時間駐車場をリニア岐阜県駅高架下に配置、バスターミナルとタクシー駐車を近接して配置することで図4の赤・青色で色分けされているように交通を分離し、交錯を回避する。

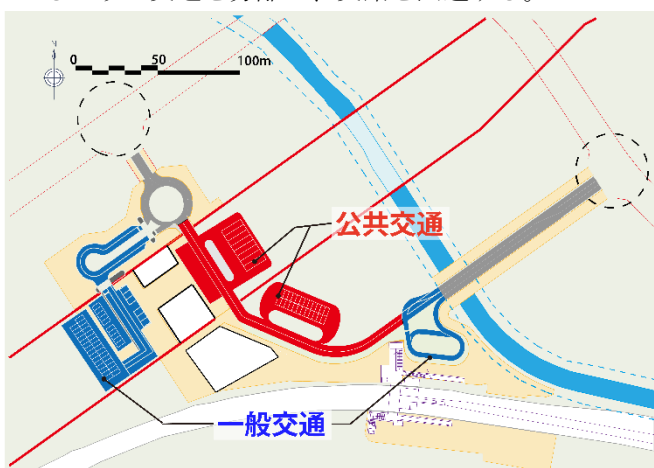


図4. 交通整備計画

- ・ 交通機能空間と歩行者空間の分離

駅前広場を歩行者空間として整備するため、交通機能空間は広場の下やリニア岐阜県駅の高架下に集約する。

リニア岐阜県駅の高架下の利用として高速バスのバスターミナル、レンタカー乗降場、短時間駐車場を整備する。リニア中央新幹線から二次交通への乗り換えの大半を高架下で行うことができるためコンパクトで利便性の高い交通機能空間を目指す。

広場下の空間にはタクシー駐車を整備する。タクシー駐車場は将来的な自動運転化を見据え、最小限のボリュームに抑え、広場に重点を置いた配置とする。

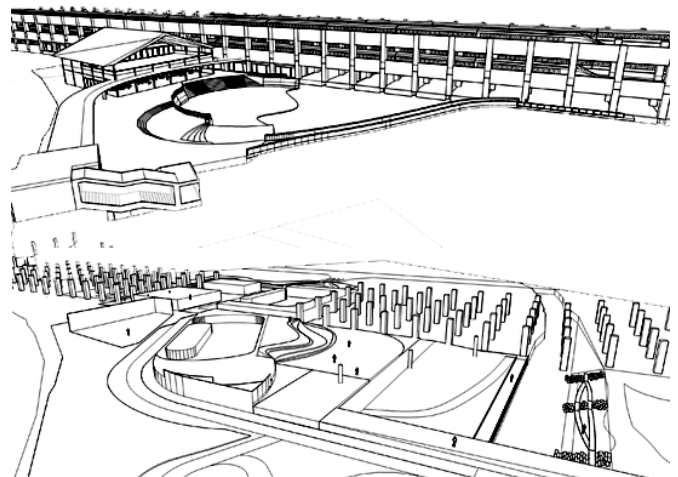


図5. ダイアグラム

2) 駅前広場

駅前で人が集まり賑わいを生み出す広場を提案する。リニア岐阜県駅・在来線美乃坂本駅の改札のある2階の高さから千旦林川に向かって階段状に降りるように設けることで駅から千旦林川方向へ景観が開かれている。

メインとなる広場を囲うように階段を配置しており、両駅の改札がある階から中心の広場へのアクセスが容易で利用しやすい。駅の利用客が待ち時間に少しゆっくりする時やイベント時などは階段をベンチ代わりに利用し、時間を過ごすことができる。

交通広場と歩行者空間を分離しているため、子供たちが駆け回っても安全なオープンスペースとして整備する。



図 6. 広場の様子

視点場としての広場

駅前広場を視点場として、千旦林川の方を望むと恵那山を正面に岐阜の豊かな自然を感じられる。千旦林川や対岸の公園など、親水性のある空間も眺めることで、「清流の国ぎふ」のイメージをアピールすることができる。

また、リニア中央新幹線そのものを観光資源として活用した際、広場や階段部を視点場として利用する。リニア中央新幹線を見るために周りの人々を広場に呼び込み、賑わいを創出することができる。



図 7. 広場方向を眺める

商業施設

岐阜県のPR効果のある商業施設を整備する。この施設は、地元の特産品や工芸品などの土産物の販売や来訪者が求める情報やサービスを提供する。

広場に面して両駅からもアクセスがしやすいため、来訪者だけでなく在来線を利用する地域住民との交流の拠点として利用される。広場を見下ろしたり、リニア中央新幹線の走行の様子を間近で見ることのできるため人々が集まる場を提供できる。



図 8. 商業施設の外観

親水公園

敷地内を流れる千旦林川に接する公園を整備し「清流の国ぎふ」のイメージをアピールする。千旦林川の両岸に水を感じられる空間の整備をする。

駅の利用者や地域住民の休憩施設、公園としての憩いの場を確保する。広場の対岸側を子供たちが川に入って遊べるように整備する。



図 9. 親水公園の様子



図 10. 親水公園 千旦林川の様子

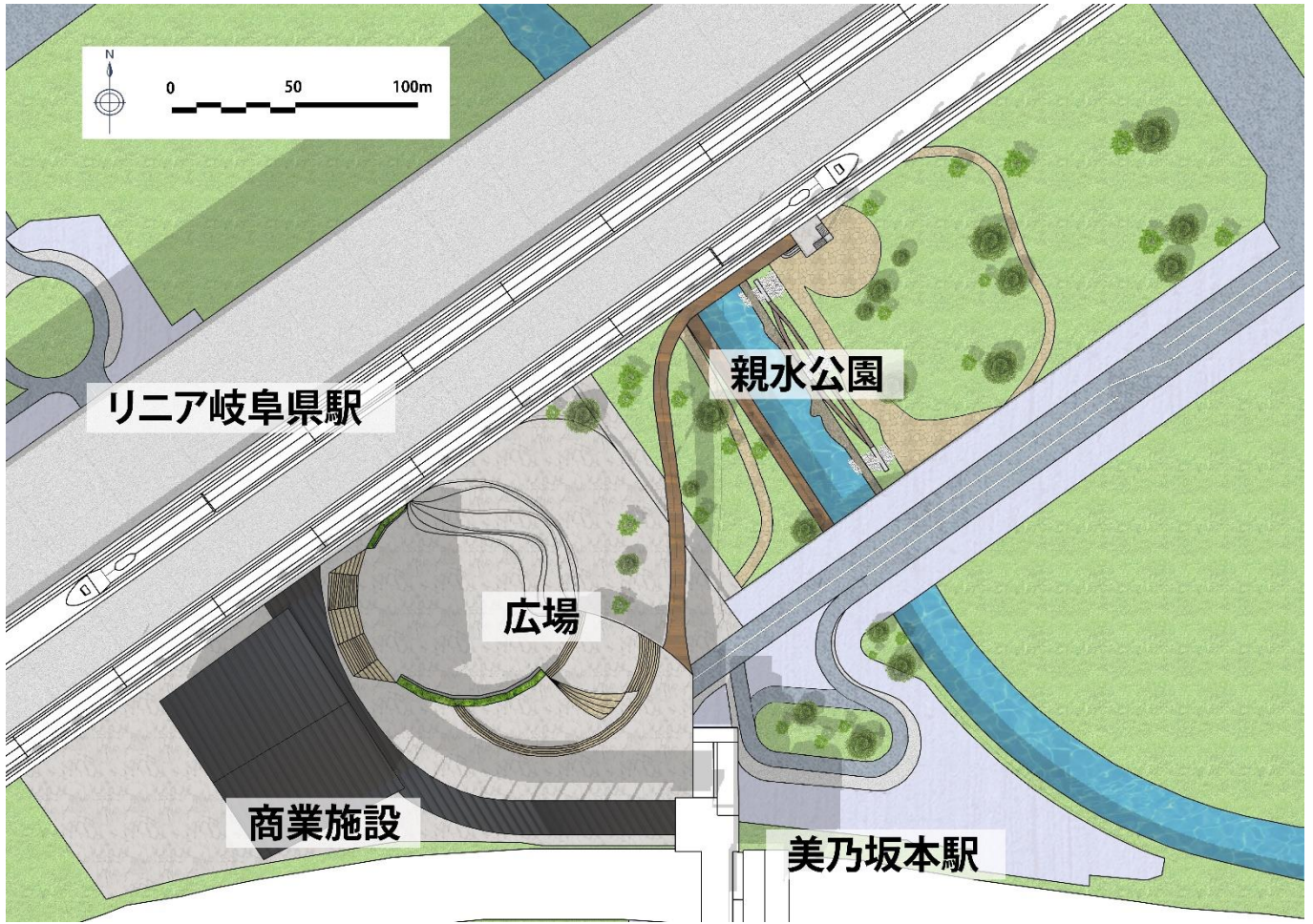


図 11. 配置図



図 12. 商業施設から広場を眺める



図 14. リニア岐阜県駅側から見た広場の様子



図 13. 商業施設内部の様子



図 15. 連絡橋からリニア中央新幹線を眺める

参考文献

2016年『リニア岐阜県駅周辺整備概略設計』
2014年『岐阜県リニア中央新幹線活用戦略』

岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会 基盤整備部会
岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会